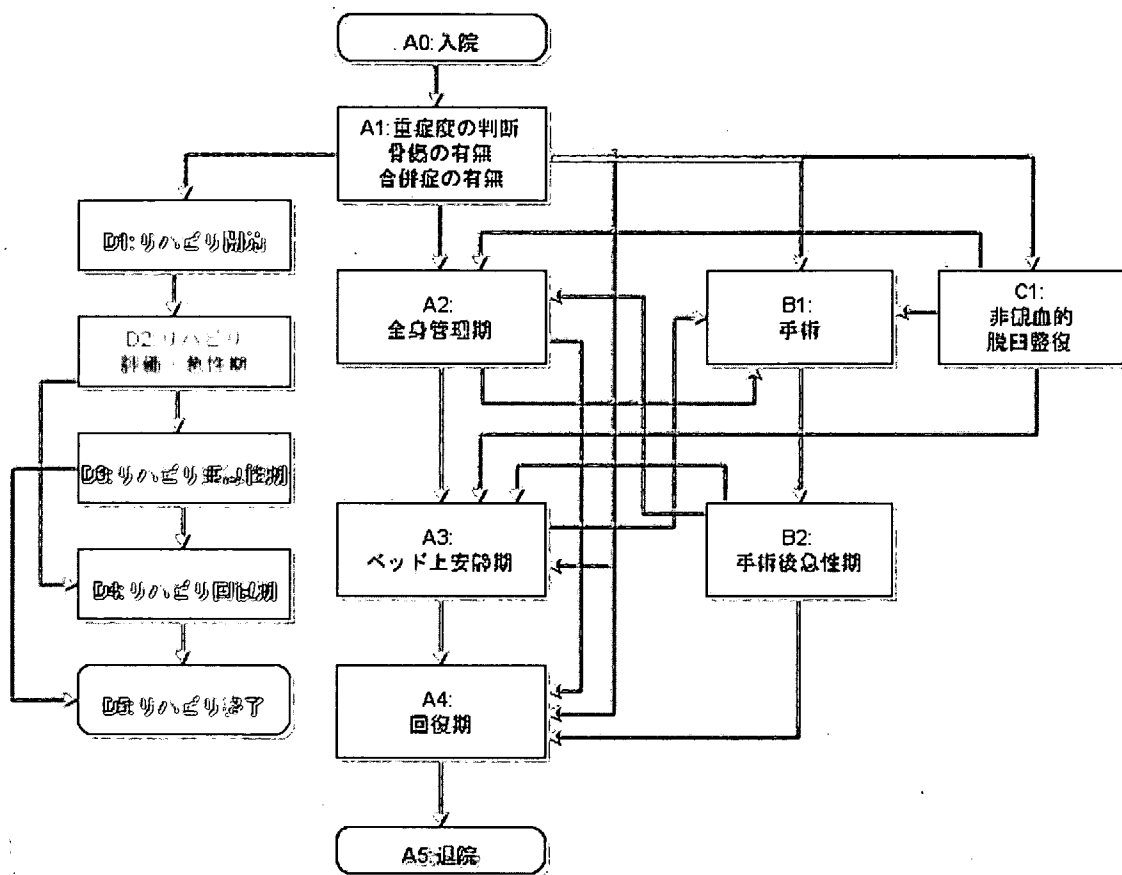


移行ロジック一覧  
頸髄損傷

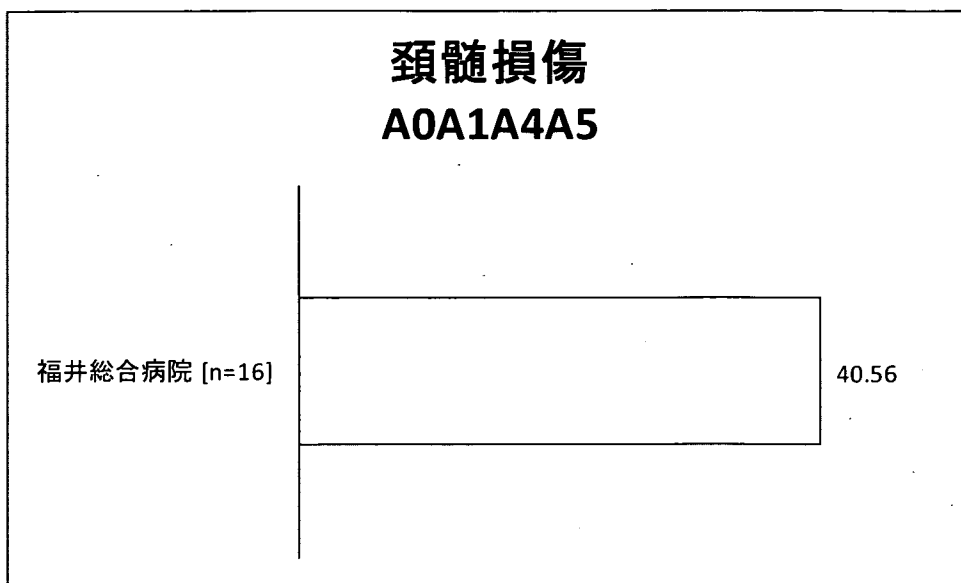
2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷	A1: 重症度の判断 骨傷の有無 合併症の有無	
A1: 重症度の判断 骨傷の有無 合併症の有無	横断性頸髄損傷/血圧低下 and 徐脈 and 頸椎以外に骨折なし and 頭部・胸腹部外傷なし	A2: 全身管理期	
	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷 and 血圧・脈拍安定 and 頸椎以外に骨折なし	A3: ベッド上安静期	
	中心性頸髄損傷 and 骨傷なし	A4: 回復期	
	完全頸髄損傷 and 意識清明・自発呼吸あり and 頸椎骨折による頸髄圧迫著明	B1: 手術	
	横断性頸髄損傷あるいは中心性頸髄損傷 and 意識清明・自発呼吸あり and 頸椎脱臼あり	C1: 非観血的 脱臼整復	
	入院当日あるいは翌日	D1: リハビリ開始	並列
A2: 全身管理期	血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定 and 頸椎安定だが座位許可されず	A3: ベッド上安静期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎安定で座位許可	A4: 回復期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定で手術適応	B1: 手術	
A3: ベッド上安静期	頸椎安定し座位許可 頸椎不安定で手術適応	A4: 回復期 B1: 手術	
A4: 回復期	症状固定し転院・入所・退院	A5: 退院	
B1: 手術	予定手術が終了する	B2: 手術後急性期	
B2: 手術後急性期	血圧低下・徐脈	A2: 全身管理期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎不安定 and 頸椎安定だが座位許可されず	A3: ベッド上安静期	
	血圧・脈拍安定 and 頸椎安定性良好で座位許可	A4: 回復期	
C1: 非観血的 脱臼整復	脱臼整復 and 血圧低下・徐脈	A2: 全身管理期	
	脱臼整復 and 血圧・脈拍安定	A3: ベッド上安静期	
	脱臼整復されず	B1: 手術	
D1: リハビリ開始	全例	D2: リハビリ 評価・急性期	
D2: リハビリ 評価・急性期	リハビリ行為によって、全身状態が変動しうる	D3: リハビリ亜急性期	
	リハビリ行為によって、全身状態が変異する可能性がほとんどない	D4: リハビリ回復期	
D3: リハビリ亜急性期	リハビリ行為によって、全身状態が変異する可能性がほとんどない	D4: リハビリ回復期	
	症状が固定し、退院する	D5: リハビリ終了	
D4: リハビリ回復期	症状が固定し、退院する	D5: リハビリ終了	

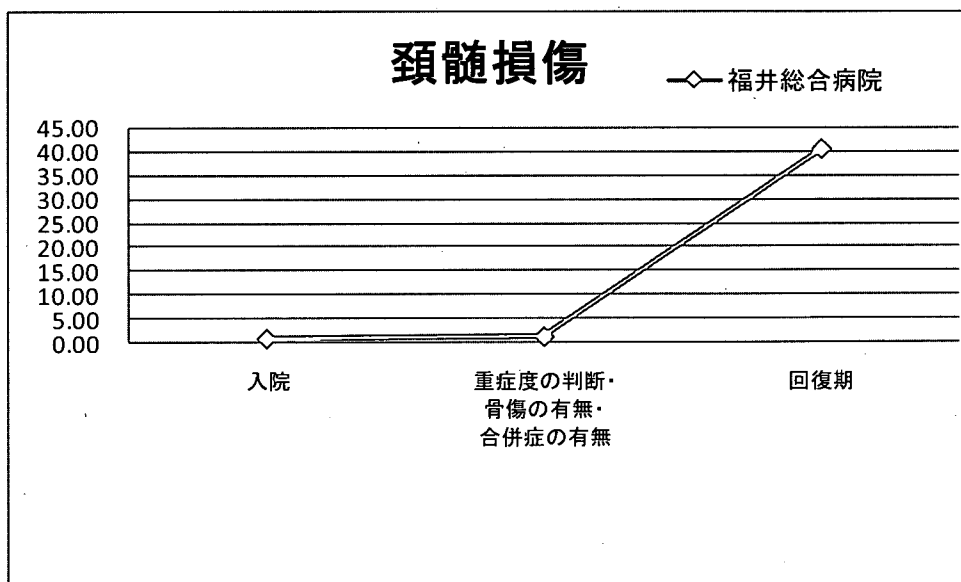


頸髄損傷の経路パターンとカバー率

コンテンツ名	ルート	件数	%	カバー	カバー率
頸髄損傷	A0-A1-A4-A5	16	80.0%	○	80.0%
	A0-A1-A3-A4-A5	4	20.0%	×	
	計	20	100.0%		

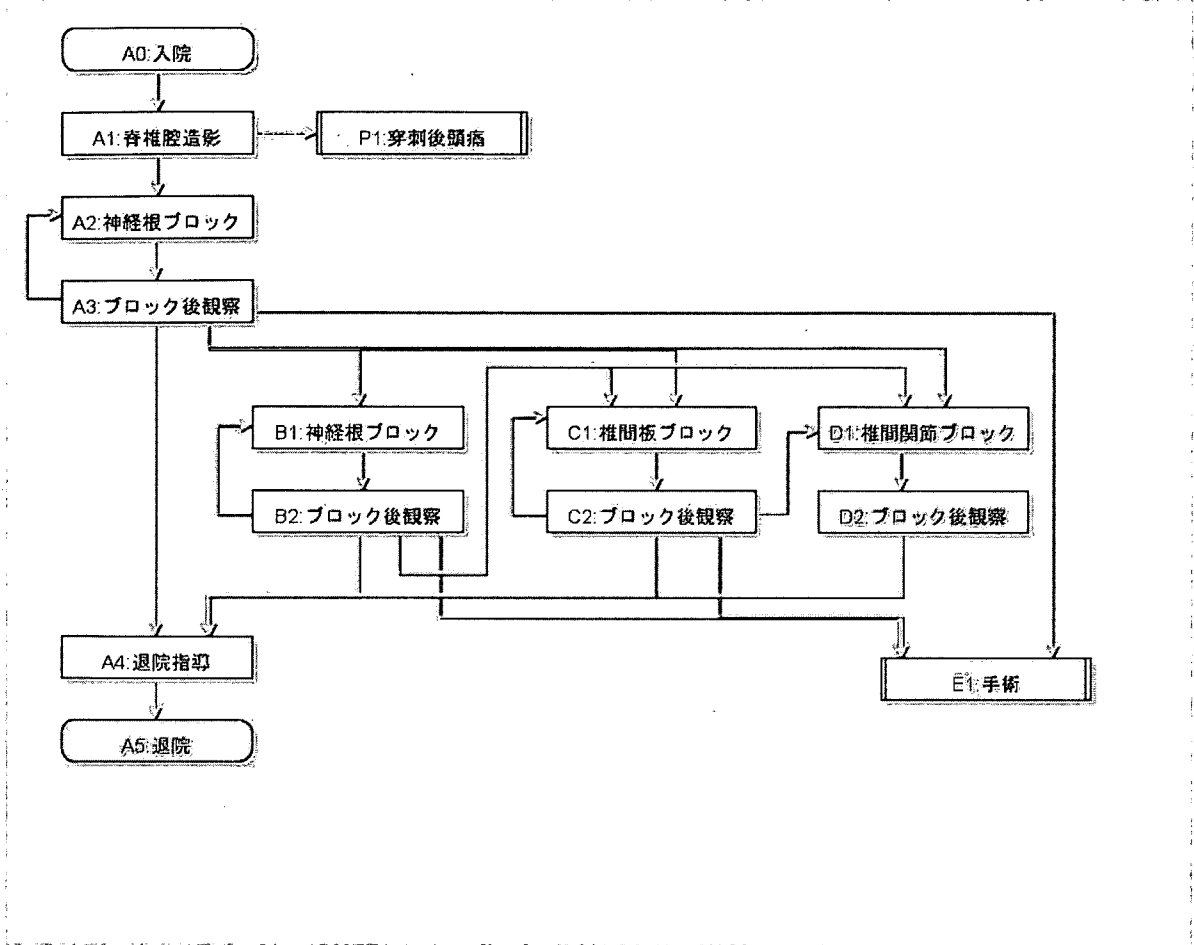


頸髄損傷の平均在院日数比較



頸髄損傷のユニット滞在日数比較

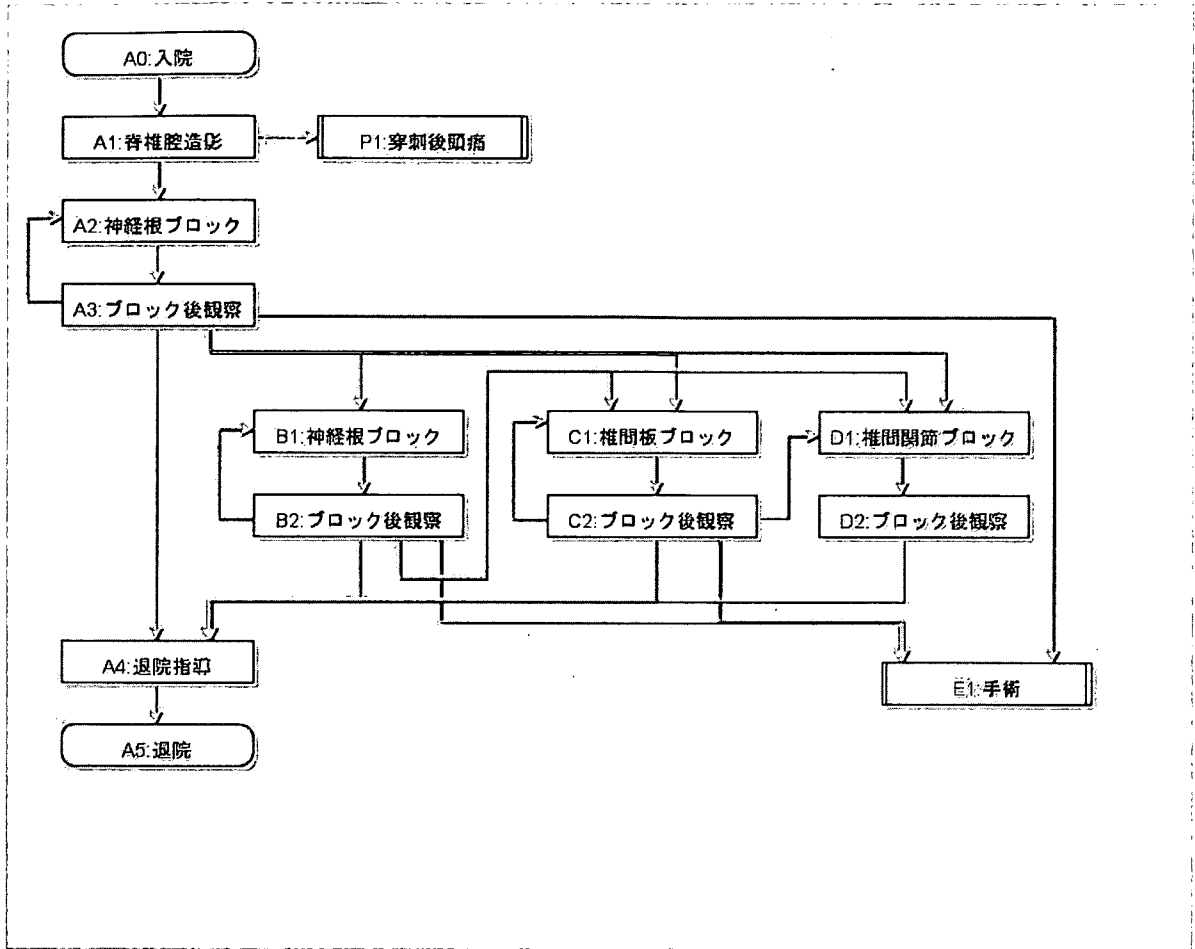
# 頰椎症性神経根症



移行ロジック一覧  
頌椎症性神経根症

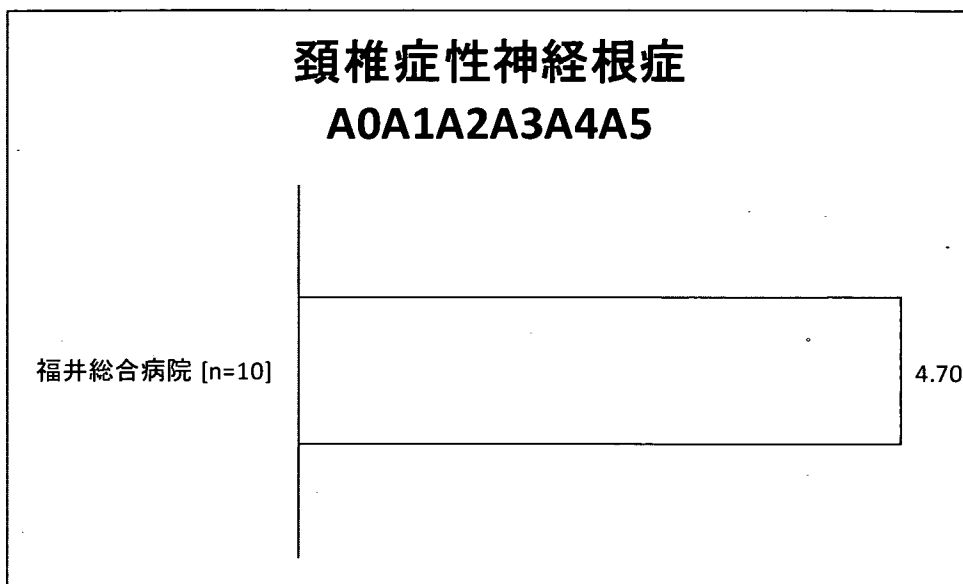
2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	脊椎腔造影が受けられる	A1:脊椎腔造影	
A1:脊椎腔造影	神経根の圧迫病変があり、身体症状と一致する 起立歩行時の頭痛出現	A2:神経根ブロック P1:穿刺後頭痛	並列
A2:神経根ブロック	予定のブロックが終了する	A3:ブロック後観察	
A3:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が上肢痛 ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が背部痛 ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	A2:神経根ブロック A4:退院指導 B1:神経根ブロック C1:椎間板ブロック D1:椎間関節ブロック E1:手術	
A4:退院指導	退院指導が終了する	A5:退院	
B1:神経根ブロック	予定のブロックが終了する	B2:ブロック後観察	
B2:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が背部痛 ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	A4:退院指導 B1:神経根ブロック C1:椎間板ブロック D1:椎間関節ブロック E1:手術	
C1:椎間板ブロック	予定のブロックが終了する	C2:ブロック後観察	
C2:ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が頸部痛 or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが2回目and本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	A4:退院指導 C1:椎間板ブロック D1:椎間関節ブロック E1:手術	
D1:椎間関節ブロック	予定のブロックが終了する	D2:ブロック後観察	
D2:ブロック後観察	ブロックで痛みが軽減した	A4:退院指導	

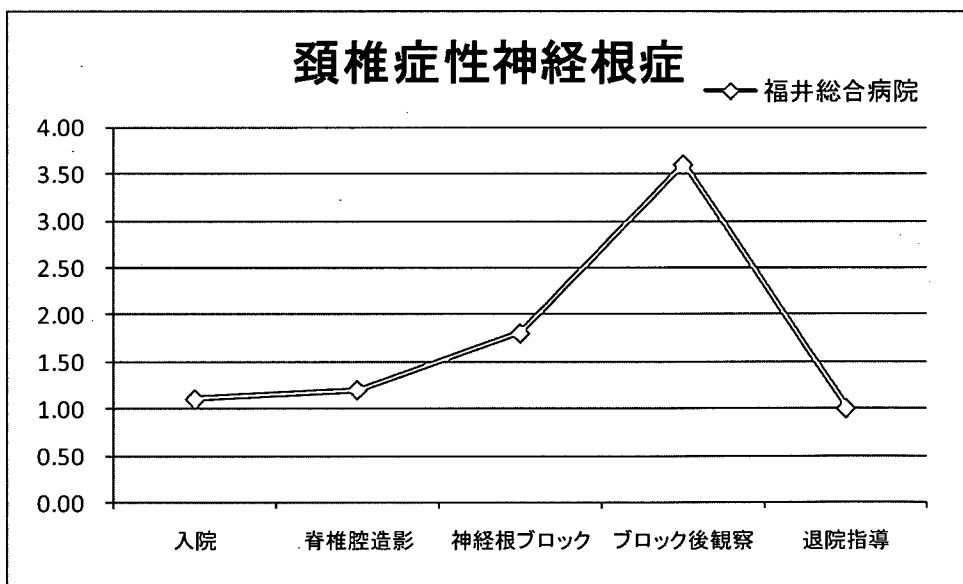


頰椎症性神経根症の経路パターンとカバー率

コンテンツ名	ルート	件数	%	カバー	カバー率
頰椎症性神経根症	A0-A1-A2-A3-A4-A5	10	50.0%	○	95.0%
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-A4-A5	4	20.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-E1	3	15.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-A4-A5	1	5.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-B1-B2-E1	1	5.0%	○	
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-C1-C2-A2-A3-A4-A5	1	5.0%	×	
	計	20	100.0%		



頰椎症性神経根症の平均在院日数比較



頰椎症性神経根症のユニット滞在日数比較

## 腰椎後方手術

### ①コンテンツの特徴

メインルートからの分岐は、リハビリに関する並列ユニットがあるだけである。臨床経路パターンとしては、メインルートのA-1 手術待機期およびA-6 ベッド上安静期を通るかどうかの差だけである。このベッド上安静期は、患者状態によって終了するものではなく医師の指示（A-7 への移行ロジック：安静が解除される）によって終了するものである。

### ②カバー率・離脱

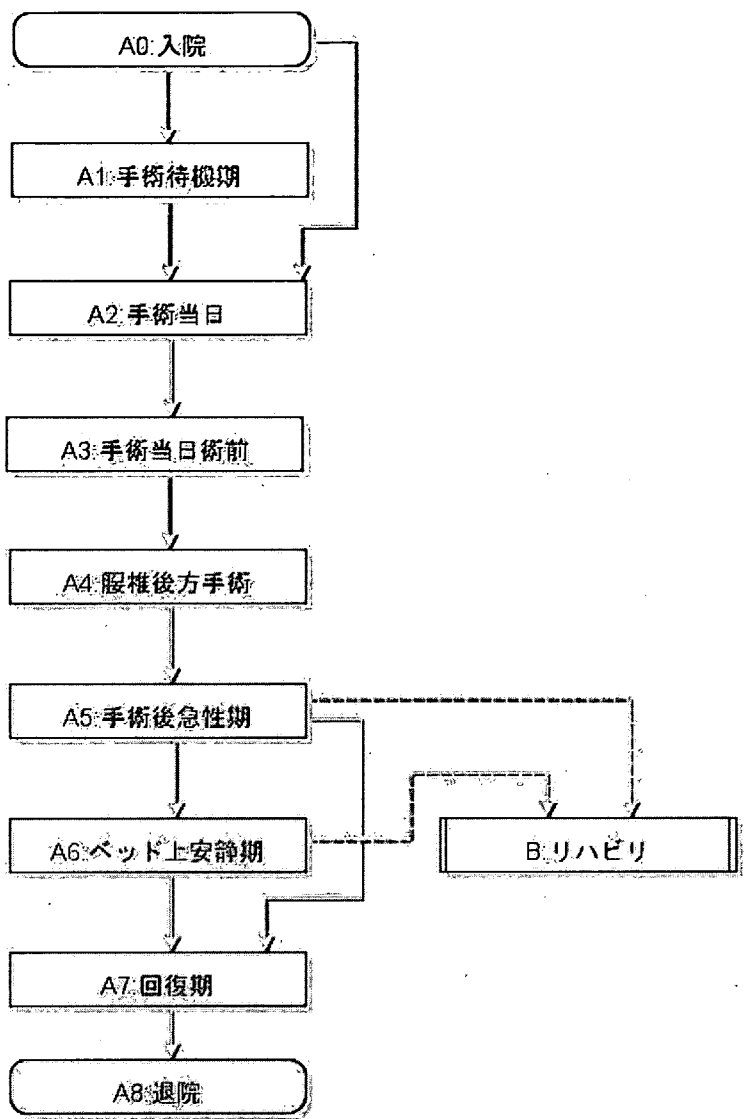
腰椎後方手術にまとめられる術式は、除圧

だけのものからインスツルメントを使用した固定術まで多岐にわたる。しかし、カバー率は100%となった。前回調査時(96.1%)から臨床プロセスチャートの改定は行っておらず、協力施設数の減少によって改善したとしか考えられない。在院日数にはかなりの施設間差が見られた。ここに術式による差が出ているものと思われる。

### ③今後の課題・展望

複数の術式を適応としながらも100%のカバー率であり、臨床プロセスチャートの改定は必要ないと考える。



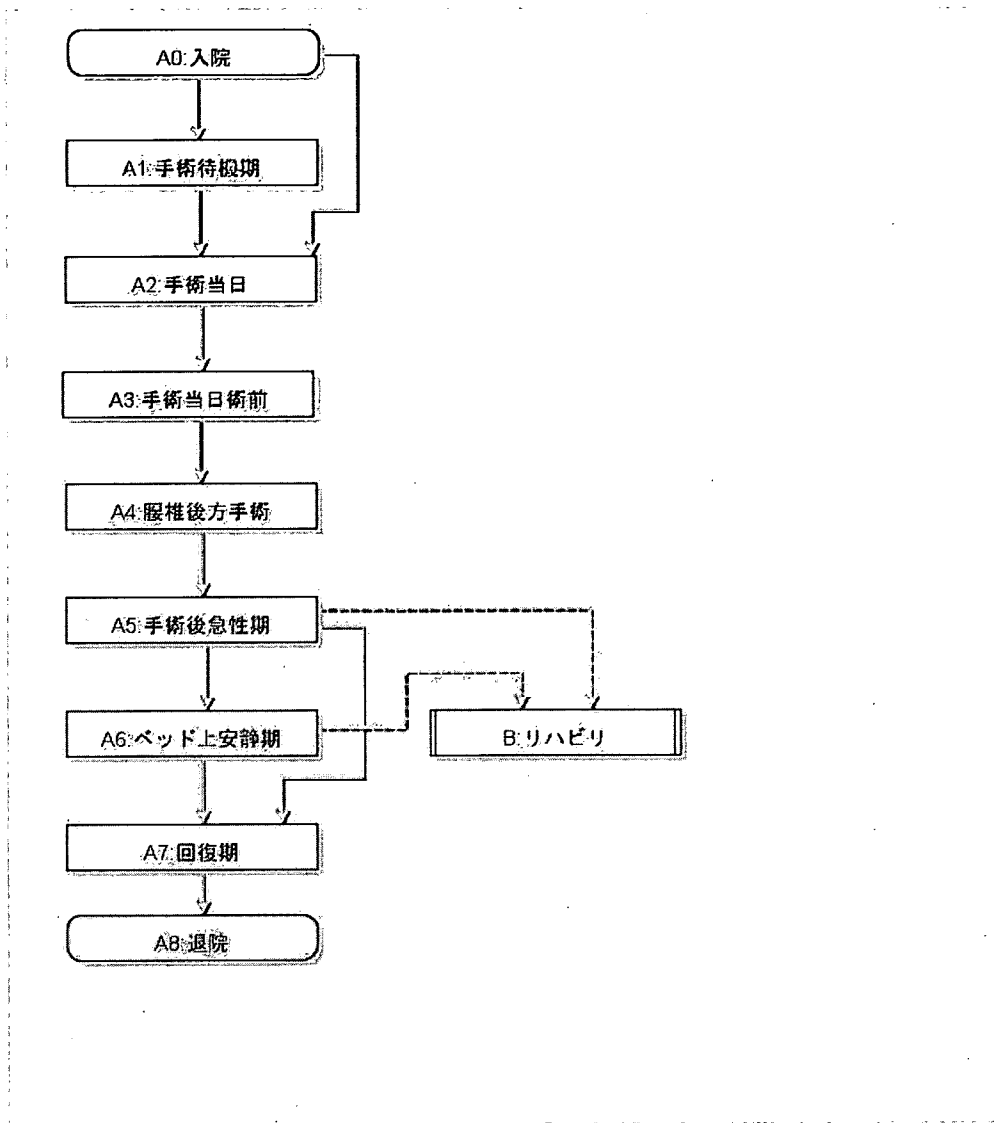


移行ロジック一覧

2007年度

腰椎後方手術

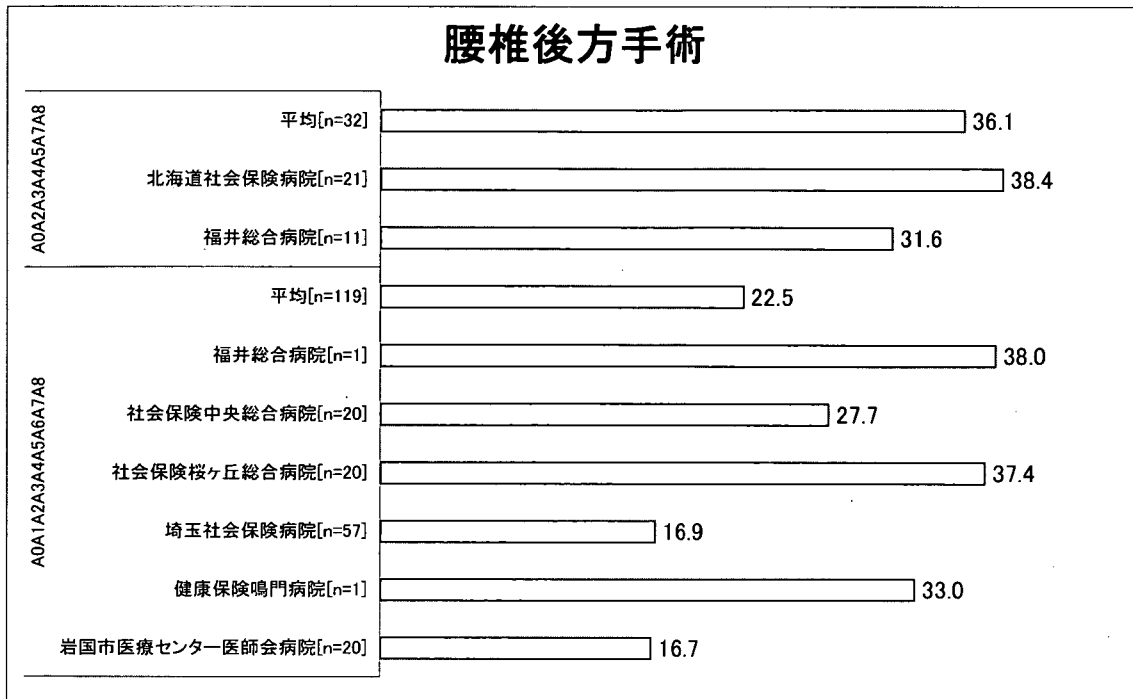
現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院	手術日まで待機を要する 手術当日になる	A1:手術待機期 A2:手術当日	
A1:手術待機期	手術当日になる	A2:手術当日	
A2:手術当日	手続き(同意書あり) and 物品準備(手術器械確認)	A3:手術当日術前	
A3:手術当日術前	手術室に搬送する	A4:腰椎後方手術	
A4:腰椎後方手術	予定の手術が終了する	A5:手術後急性期	
A5:手術後急性期	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸が安定する) and 麻酔状態から回復(下肢の知覚・運動の回復and腸蠕動の回復) and 医師指示(ベッド上安静を指示されている)	A6:ベッド上安静期	
	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸が安定する) and 麻酔状態から回復(下肢の知覚・運動の回復and腸蠕動の回復) and 医師指示(ベッド上安静の指示が解除される)	A7:回復期	
	時間的経過(手術翌日) and 医師指示(リハビリ処方あり)	B:リハビリ	並列
A6:ベッド上安静期	安静が解除される リハビリ処方が出る	A7:回復期 B:リハビリ	並列
A7:回復期	身体状況(リハビリゴールを達成する) and 環境調整(退院先環境整備が終了する)	A8:退院	



腰椎後方手術の経路パターンとカバー率

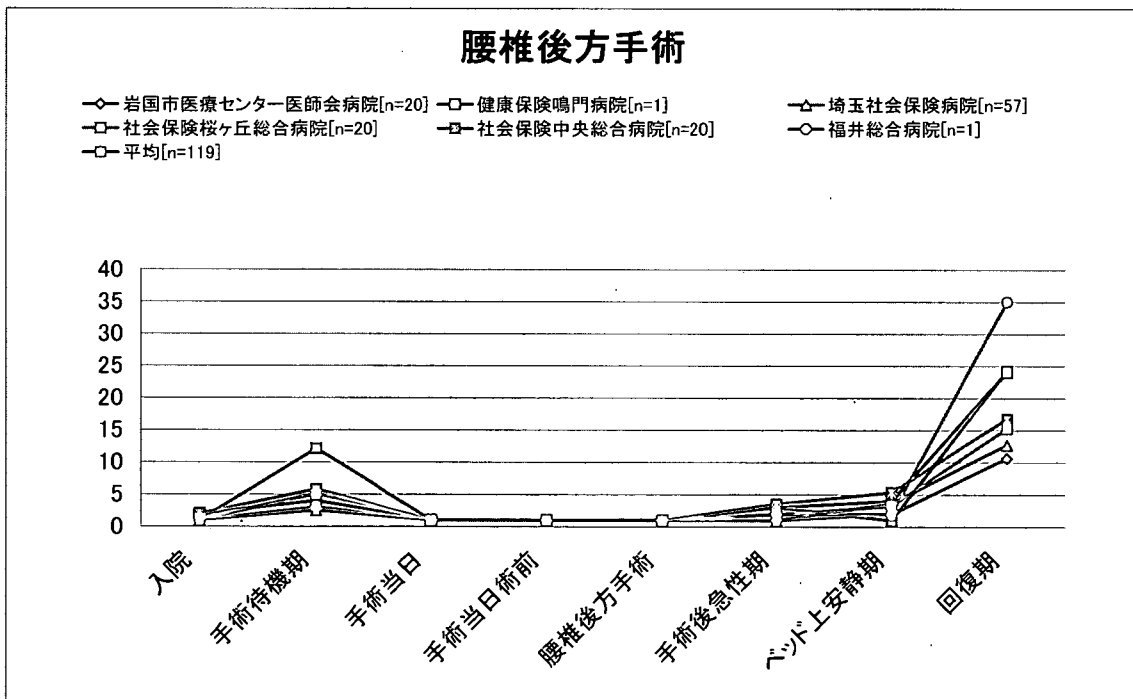
コンテンツ名	ルート	件数	%	カバー	カバー率
腰椎後方手術	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A7-A8	119	74.8%	○	100.0%
	A0-A2-A3-A4-A5-A7-A8	32	20.1%	○	
	A0-A2-A3-A4-A5-A6-A7-A8	7	4.4%	○	
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A7-A8	1	0.6%	○	
	計	159	100.0%		

## 腰椎後方手術



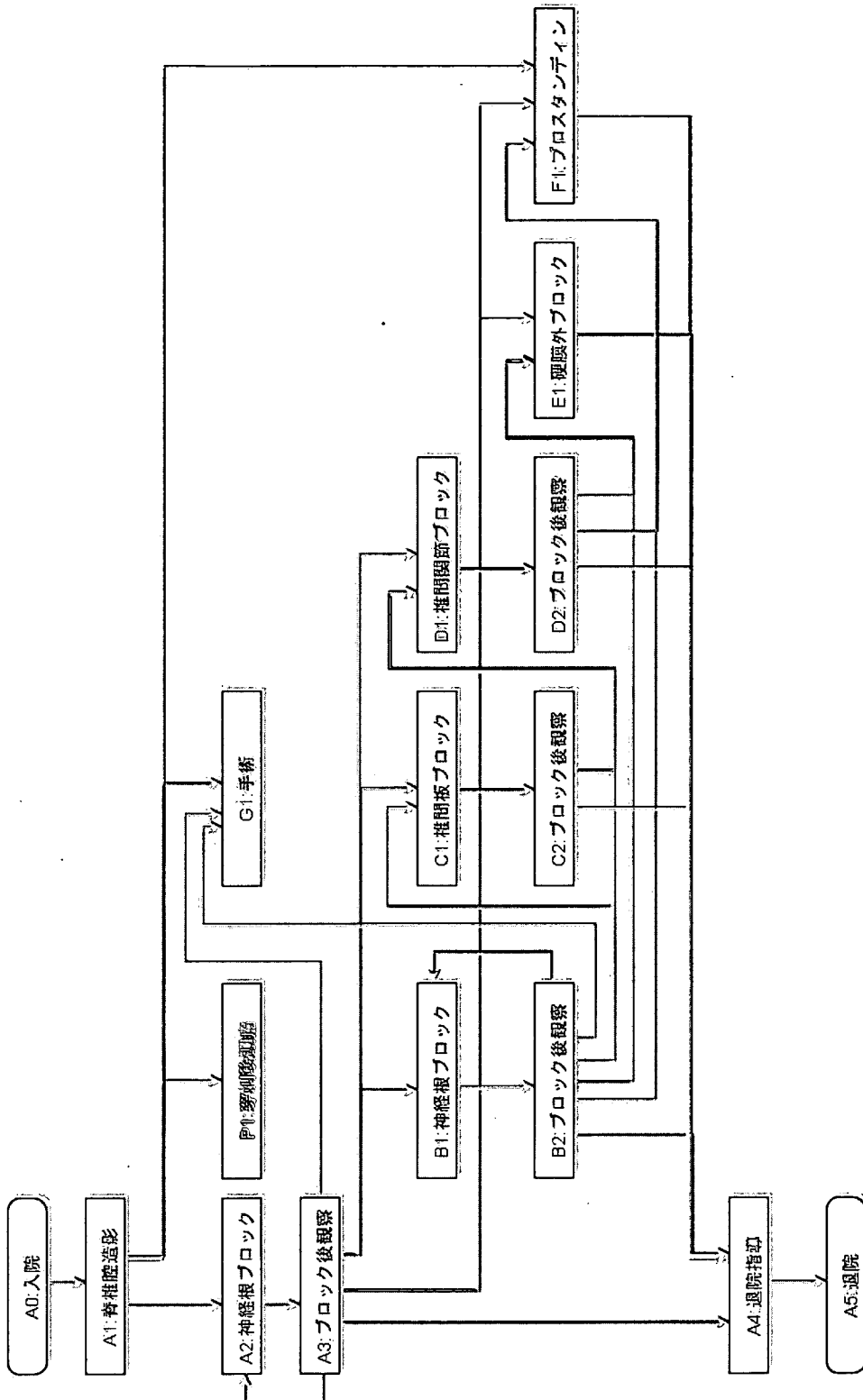
腰椎後方手術の平均在院日数比較

## 腰椎後方手術



腰椎後方手術のユニット滞在日数比較

坐骨神経痛

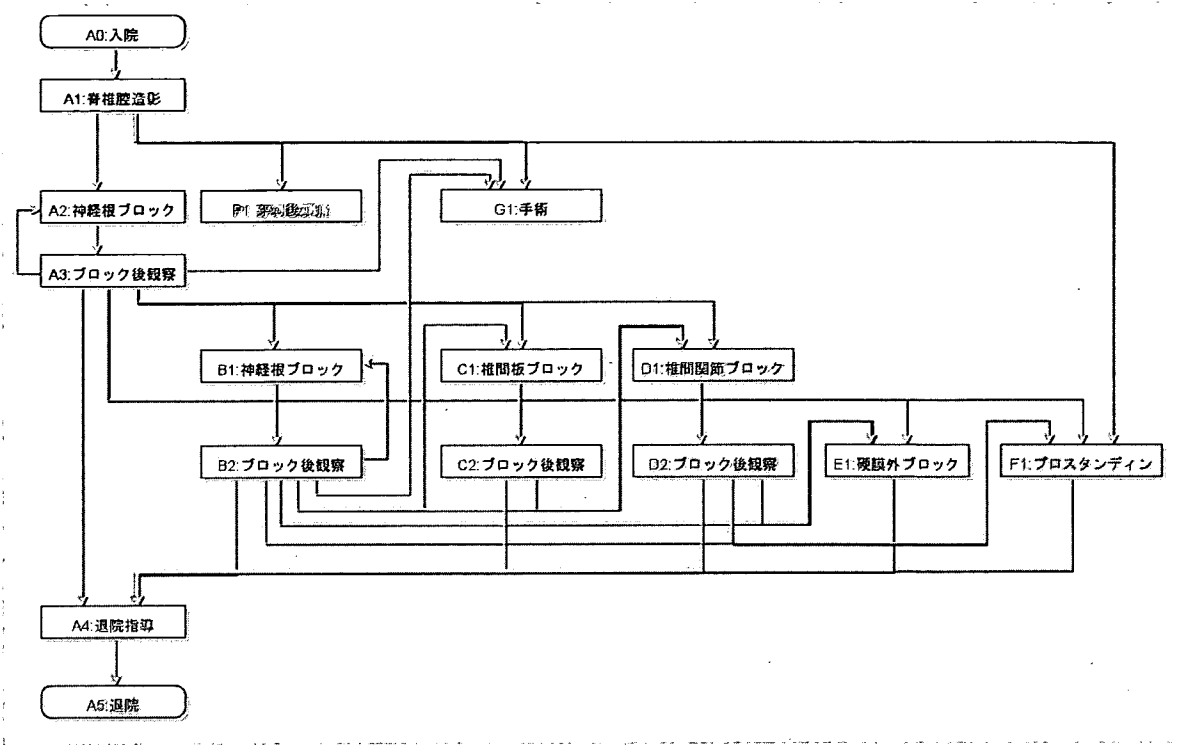


移行ロジック一覧

2007年度

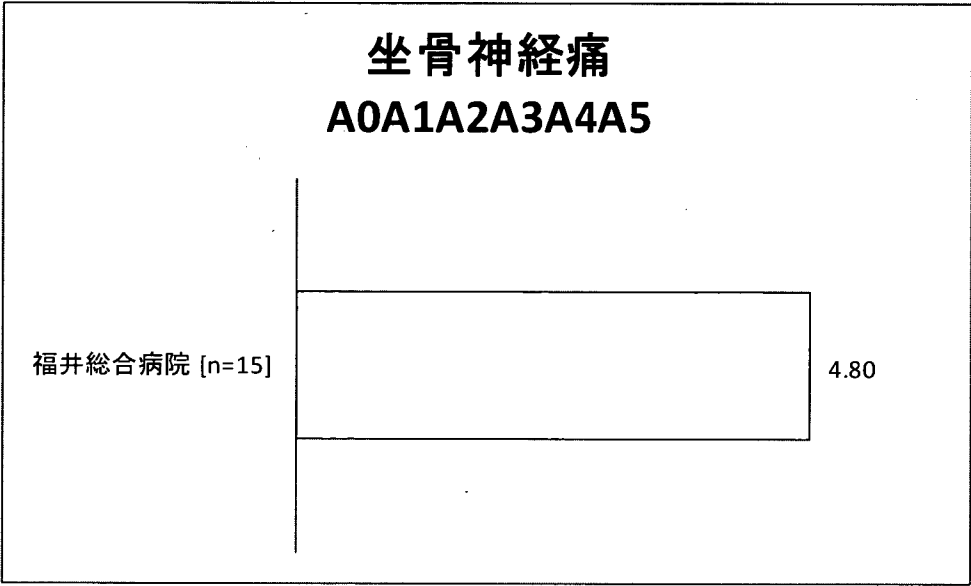
坐骨神経痛

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0: 入院	入院後に脊椎造影を行い、その後治療(手術を含む)を行う予定の患者	A1: 脊椎造影	
A1: 脊椎造影	筋力低下がないか軽度あるいはあっても進行が急速でなく、馬尾症状がない 神経圧迫所見がなく、血行障害による下肢痛が疑われる 筋力低下進行が急速で造影所見と一致する、あるいは馬尾症状がある	A2: 神経根ブロック F1: プロスタンディン G1: 手術	
A2: 神経根ブロック	起立歩行時の頭痛出現 予定のブロックが終了する	P1: 穿刺後頭痛 A3: ブロック後観察	
A3: ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が下肢痛 ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 or 痛みの中心が腰臀部痛andMRIで椎間関節より椎間板の変性が強い ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が腰臀部痛/MRIで椎間板より椎間関節の変性が強い ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず and 腰椎手術の既往なし ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず and 腰椎手術の既往あり ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	A2: 神経根ブロック A4: 退院指導 B1: 神経根ブロック C1: 椎間板ブロック D1: 椎間関節ブロック E1: 硬膜外ブロック F1: プロスタンディン G1: 手術	
A4: 退院指導	退院指導が終了する	A5: 退院	
B1: 神経根ブロック	予定のブロックが終了する	B2: ブロック後観察	
B2: ブロック後観察	ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該ブロックが1回目 and 本人が手術を希望せず ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存 and 痛みの中心が腰臀部痛/MRIで椎間関節より椎間板の変性が強い ブロック直後も翌朝も効果なし、あるいは残存and痛みの中心が腰臀部痛andMRIで椎間板より椎間関節の変性が強い or ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand当該ブロックが1回目and本人が手術を希望せず ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず and 腰椎手術の既往なし ブロックで軽減していた痛みが再燃あり and 当該神経根ブロックが2回目 and 本人が手術を希望せず and 腰椎手術の既往あり ブロックで軽減していた痛みが再燃ありand本人が手術を希望	A4: 退院指導 B1: 神経根ブロック C1: 椎間板ブロック D1: 椎間関節ブロック E1: 硬膜外ブロック F1: プロスタンディン G1: 手術	
C1: 椎間板ブロック	予定のブロックが終了する	C2: ブロック後観察	
C2: ブロック後観察	翌朝に効果あり 翌朝に効果なし	A4: 退院指導 D1: 椎間関節ブロック	
D1: 椎間関節ブロック	予定のブロックが終了する	D2: ブロック後観察	
D2: ブロック後観察	翌朝に効果あり 翌朝に効果なし and 腰椎手術の既往なし 翌朝に効果なし and 腰椎手術の既往あり	A4: 退院指導 E1: 硬膜外ブロック F1: プロスタンディン	
E1: 硬膜外ブロック	硬膜外ブロックが終了し、症状が軽快する	A4: 退院指導	
F1: プロスタンディン	プロスタンディンが終了し、症状が軽快する	A4: 退院指導	

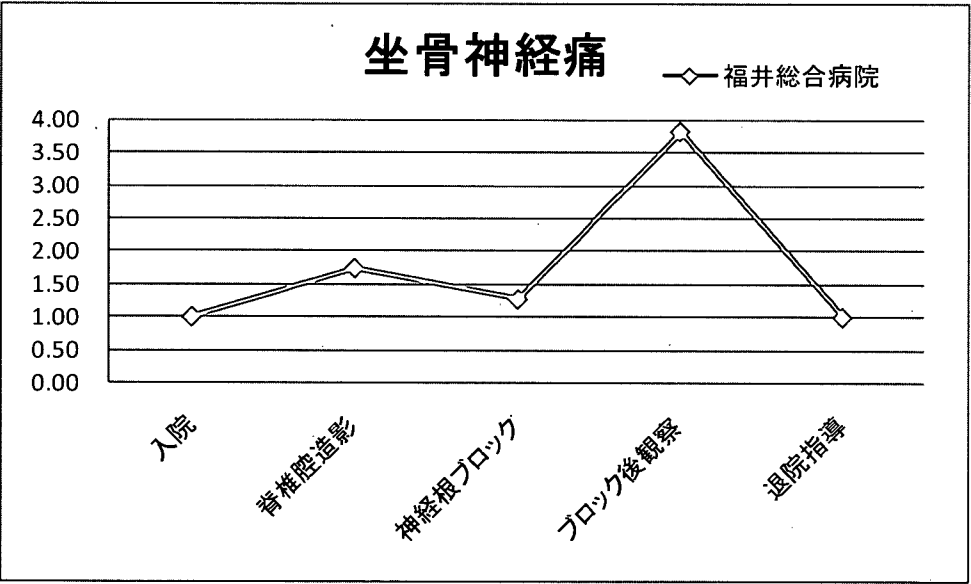


坐骨神経痛の経路パターンとカバー率

コンテンツ名	ルート	件数	%	カバー	カバー率
坐骨神経痛	A0-A1-A2-A3-A4-A5	15	68.2%	○	95.5%
	A0-A1-A2-A3-B1-B2-A4-A5	3	13.6%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-G1	2	9.1%	○	
	A0-A1-A2-A3-A2-A3-A4-A5	1	4.5%	○	
	A0-A1-D1-D2-A4-A5	1	4.5%	×	
	計	22	100.0%		



坐骨神経痛の平均在院日数比較



坐骨神経痛のユニット滞在日数比較



## 人工股関節手術

### ①コンテンツの特徴

以前は、手術後を A-3:術後全身管理 A-4:術後一般管理にしていたが、患者状態を前面にするために A-3:術後急性期 A-4:ベッド上安静期 A-5:術後安定期に分けた。さらに起こりうる合併症対策として、B-1:深部感染 C-1:表層感染 D-1:手術創離開・壊死 E-1:股関節脱臼整復のユニットを新設したが、B-1:深部感染以外はメインルートと並列とした。

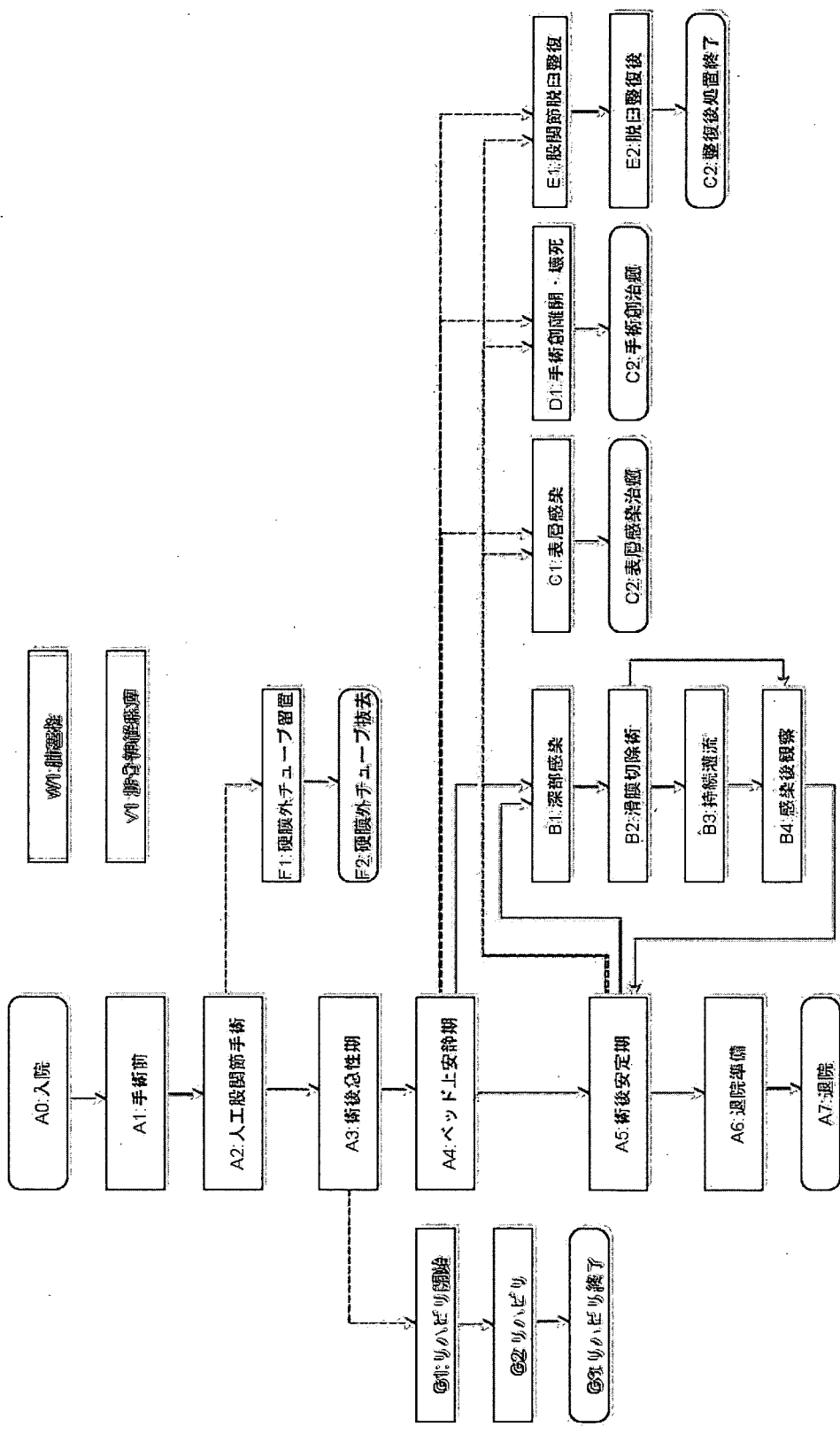
### ②カバー率・離脱

前回検証調査時に 100%だったカバー率が 99.3%となった。しかし、その離脱症例は本来 E-1:股関節脱臼整復ユニットに入る

べきものと思われ、100%のカバー率と考えるべきと思われる。各ユニット滞在日数で1番大きな差として現れたのが A-5:術後安定期である。これは、各施設の退院基準にばらつきがあるためと思われる。A-1:手術前と A-4:ベッド上安静期に差があるのは、施設間の方針の違いであり、改善に向けて考慮する余地があると思われる。

### ③今後の課題・展望

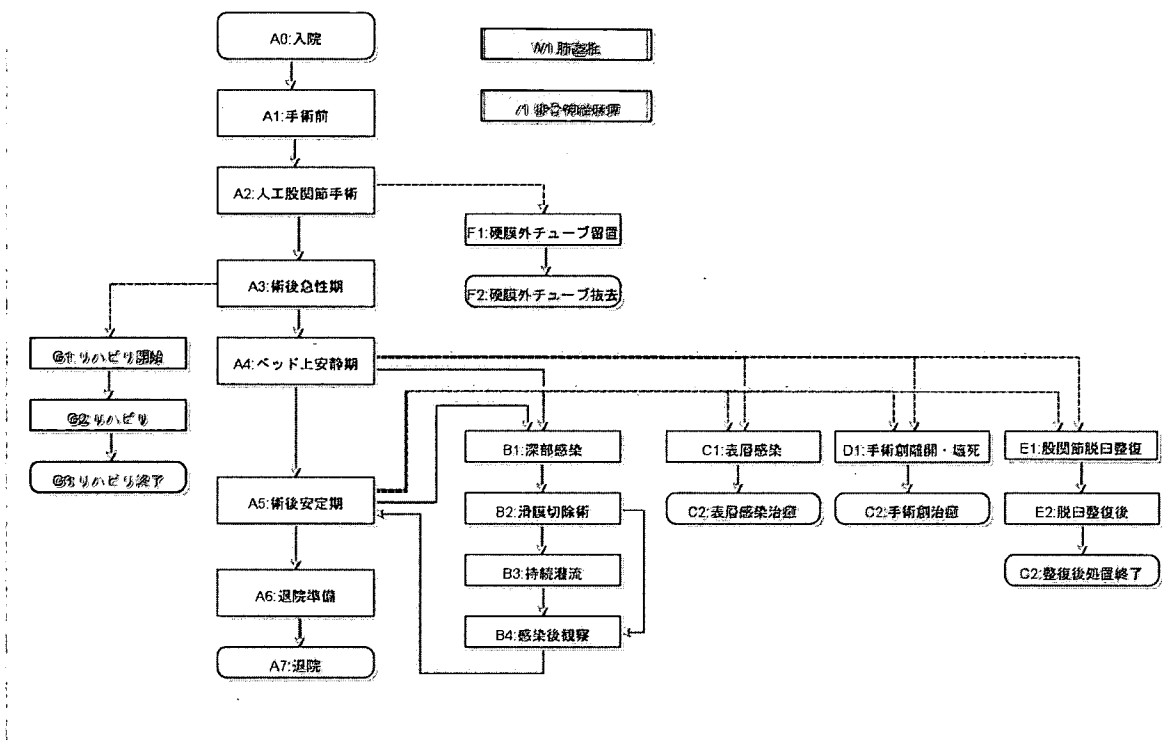
全国ほぼ標準の手術方法であり、標準化によって施設間の差をなくすには最適の疾患（手術）と思われる。検証調査結果の公表とベンチマーキングによる標準化を期待する。



移行ロジック一覧  
人工股関節全置換術

2007年度

現ユニット	移行条件	移行先	ルート種別
A0:入院		A1:手術前	
A1:手術前	以下の手術の準備が終了する 手続き(手術同意書あり) and 物品準備(手術器械・インプラント確認作図・設計終了)	A2:人工股関節手術	
A2:人工股関節手術	予定の手術が終了する 硬膜外チューブを留置した	A3:術後急性期 F1:硬膜外チューブ留置	並列
A3:術後急性期	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸)が安定する and 麻酔状態から回復(下肢の知覚・運動の回復and腸蠕動の回復) 手術翌日	A4:ベッド上安静期	
A4:ベッド上安静期	ベッド上安静が解除される 所見(股関節発赤・腫脹・熱感、発熱) and 検査(CRP・白血球数高値、関節液培養陽性)	G1:リハビリ開始 A5:術後安定期 B1:深部感染	並列
	所見(創部発赤・熱感) and 検査(関節液培養陰性)	C1:表層感染	並列
	創部離開・壊死している	D1:手術創離開・壊死	並列
	身体所見(股関節痛があるand股関節が内旋位にある) and 検査所見(レントゲンで股関節が脱臼している)	E1:股関節脱臼整復	並列
A5:術後安定期	股関節機能(リハビリゴールを達成する) and 環境調整(退院先環境整備が終了する) and 身体ケア(ケア計画が完了する)	A6:退院準備	
	所見(股関節発赤・腫脹・熱感、発熱) and 検査(CRP・白血球数高値、関節液培養陽性)	B1:深部感染	
	所見(創部発赤・熱感) and 検査(関節液培養陰性)	C1:表層感染	並列
	創部離開・壊死している	D1:手術創離開・壊死	並列
	身体所見(股関節痛があるand股関節が内旋位にある) and 検査所見(レントゲンで股関節が脱臼している)	E1:股関節脱臼整復	並列
A6:退院準備	退院指導・調整が終了する	A7:退院	
B1:深部感染	手続き(同意書あり) and 身体状況(麻酔をかけられる状態にある)	B2:滑膜切除術	
B2:滑膜切除術	手術中持続灌流装置留置 手術中持続灌流装置留置せず	B3:持続灌流 B4:感染後観察	
B3:持続灌流	持続灌流装置を抜去した	B4:感染後観察	
B4:感染後観察	感染が鎮静化する	A5:術後安定期	
C1:表層感染	創部発赤・熱感がなくなる	C2:表層感染治癒	
D1:手術創離開・壊死	創が治癒する	C2:手術創治癒	
E1:股関節脱臼整復	レントゲンで整復されている	E2:脱臼整復後	
E2:脱臼整復後	整復後の安静・固定が解除される	C2:整復後処置終了	
F1:硬膜外チューブ留置	硬膜外チューブを抜去する	F2:硬膜外チューブ抜去	
G1:リハビリ開始	リハビリプログラム確認・ゴール設定	G2:リハビリ	
G2:リハビリ	退院する	G3:リハビリ終了	



人工股関節手術の経路パターンとカバー率

コンテンツ名	ルート	件数	%	カバー	カバー率
人工股関節全置換術	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A7	170	99.4%	○	99.4%
	A0-A1-A2-A3-A4-A5-A6-A5-A6-A7	1	0.6%	×	
	計	171	100.0%		